

“超”を目指す軸受技術研究会（第3種，主査 森 淳暢）：

本研究会は，軸受技術の基礎研究や応用・開発に携わっている者，気軽になんとなく参加してみたい者が集まっいろいろな意味での“超”を議論し，情報を交換する場として運営されている．本年度は，委員数33名，平均出席者数は20名程度で，関西大学を開催場所とし，3回の研究会を開催した．研究会での講演タイトルは以下のとおりである．

第16回研究会（2005年7月9日 於：関西大学） ①非晶質カーボン膜の原子スケール磨耗（和歌山大 土谷茂樹）， ②生体関節と人工関節の潤滑機構（京大 池内 健）， ③冷媒用ねじ圧縮機のすべり軸受化への研究（放送大 松尾昌憲）．

第17回研究会（2005年10月1日 於：関西大学） ①HDD用流体軸受の技術動向と動圧空気軸受の基本特性（パナソニック四国エレクトロニクス 山本武克）， ②スライダタッチダウン・テイクオフヒステリシス挙動におよぼす超薄膜液体潤滑膜の影響－WTCⅢ報告を兼ねて－（関西大 多川則男， コニカミノルタ 仙道 宏， 関西大 森 淳暢）， ③超微細多孔質金属からの水蒸発を利用したハイブリッド気体軸受（京大 吉富 聡・吉田英生・坪田宏之・齋藤元浩）， ④WTCⅢ参加報告（同志社大 平山朋子）．

第18回研究会（2005年12月17日 於：関西大学） ①一小さなものから大きなものまで－マイクロガスタービンと人工震源への気体軸受の応用 常識はずれ？少し変わった気体軸受（東北学院大 十合晋一， 石川島播磨重工業 磯村浩介， 東北大 田中秀治， 静岡大 伊勢智彦）， ②極小玉軸受の保持器回転周期振れにおよぼす潤滑変動と転動体不等配の影響（東京理科大 野口昭治・上原勇紀）， ③塑性流動からなる気孔調整層を利用した多孔質焼結流体軸受（米子高専 大塚 茂）．

研究会終了後には，話題提供者を囲んで簡単な懇親会を設けることが慣例となっており，毎度，ざっくばらんな意見交換がなされている．次年度も軸受技術に関わる話題を基とし，年3～4回の研究会の開催を予定している．

URL: <http://web.maizuru-ct.ac.jp/control/noma/trib/tribology.html>